

# スーザン＝ロリ・パークスの 『第三王国における微妙な変化』について

松本 美千代

## 要 旨

本稿は、スーザン＝ロリ・パークス作 *Imperceptible Mutabilities in the Third Kingdom* を日本語に抄訳したものを中心としている。原作は中心的な3つの物語の間に、反復するイメージ・シーンが2回挿入される5部構成だが、紙面の都合上、前半2部を翻訳した。後半部に結末がある作品形態ではなく、完結した3部の物語が、相関するモチーフや比喻によって連結された作品である。断片的で句読点のない文体、呪術的なせりふの反復、同音異義語、多義語によることば遊び、多重な隠喩等の実験的手法により、900万人が消失したとされる中間航路と奴隷制の歴史が、現在のアフリカ系アメリカ人のアイデンティティ形成に及ぼす影響を描出している。時間や空間的一貫性を排し、歴史的・文化的・社会的な思考を交錯させながら、記憶や心象風景を表現する手法は高く評価され、1989年のオービー賞を獲得した。

## I. 作家解説

スーザン＝ロリ・パークス (Suzan-Lori Parks, 1963-) は2002年『トップドッグ／アンダードッグ』( *Topdog/Underdog* ) で初の黒人女性としてピューリッツァー賞を受賞したアメリカ人劇作家である。陸軍大佐の父親の転勤で高校時代をドイツで過ごし、帰国後マウント・ホリヨーク大学在学中に、黒人作家の恩師ジェイムズ・ボールドウィン (James Baldwin, 1924-87) の勧めで創作を始めた。数々の賞とスカラシップを獲得し、イェール大学、カリフォルニア芸術大学などで劇作を教授した後、現在は映画学で有名なニューヨーク大学芸術学部 (Tisch School of the Arts) で教鞭を執っている。2008年からはニューヨーク・パブリック・シアター初の座付劇作家に就任し、翻案したミュージカル『ポーギーとベス』が2012年度のトニー賞を受賞するなど、活躍が目まぐるしい。

パークス自身は必ずしも黒人の状況のみを描いているわけではないと述べているが、彼女の作品は主に白人中心社会におけるアフリカ系アメリカ人の疎外感や違和感を扱う。人格形成期にドイツの教育機関においてパークスが体験した外国人としての他者性は、母国アメリカにおいてアフリカ系アメリカ人が感じる疎外感と重なり合って、パークス独自の言語世界を生み出している。今回取り上げた作品にも、登場人物が白人教師の指示通りに発音できないことが劣等感として個人の人格形成に影を落とすというシーンがある。現代において人種差別の形態は以前より可視化されにくくなり、むしろこうした日常にある「規範」による抑圧、多元的多層的に黒人たちが日々差別構造の枠組みに置かれる様子を、パークスは言語や名前を奪われて新大陸へと連行された奴隷たちの苦難に関連付けて描い

ている。

パークスはジャズやブルース、アフリカの音楽性に基づく「反復・修正法」という独自の作劇法によって人種主義の表象を強調する。これは造語や地口・同音異義語などの特定の語句を作品全体に散りばめ、旋律や呪術のように反復させながらイメージ喚起を促す劇的效果で、言語と経済的手段を支配されたアメリカ系アメリカ人の複雑な迫害の記憶を様々な角度から呼び覚ます手法である。大航海時代・中間航路・奴隷制・奴隷解放といった既存の歴史表象を考察し、あえてステレオタイプの人種表象を配置することで、それらがメディアや教育、文化を通して反復されていることを再認識させるのである。

パークスの作品には他に、うら寂しい遊園地で暗殺されるリンカーンの物真似芸人として生計を立てる黒人の悲哀を綴った『アメリカ・プレイ』(America Play, 1993) や、19世紀末にイギリスの見世物として展示された巨大な臀部をもつアフリカ人女性を描いた『ヴィーナス』(Venus, 1996) などがある。ナサニエル・ホーソンの『緋文字』の主人公を黒人女性に置き換えて改作した『血だまりのなかで』(In the Blood, 1999) や、規範言語話者の発話を抑制する効果を狙った挑戦的な題名の『ファッキング A』(Fucking A, 2000) には、5人の異父きょうだいを生活保護で育てる母親が登場する。いずれも白人社会で抑圧される黒人の表象を、根幹から問い直すメタファーを放つ作家である。

## II. 抄 訳

### 第1部：カタツムリたち

役者：モリー／モナ，シャーリーン／チョナ，ベロニカ／ペローナ，博物学者／ラッツキー博士，泥棒

### 第2部：第三王国

役者：「親類を見る者」，「自分たちを見る者」，「サメを見る者」，「魂を見る者」，「監視者」

### 第1部：カタツムリたち

A.

スライド上映：モリーとシャーリーンの映像。薄暗い舞台でスライドの光が切り替わる中、モリーとシャーリーンが話し始める。

シャーリーン：どうやって切り抜けたの？

モリー：抜けてない。

シャーリーン：その脚。ガードしているの。瘦せた？

モリー：うん。チョナどうしよう。飛びおりるべきかな飛びおりかな。

シャーリーン：卵食べる？

モリー：グチャっというかな。

シャーリーン：どうかな……

モリー：12階上。どう思う？

シャーリーン：だめだめ。スクランブル好き？

モリー：最悪。

シャーリーン：チーズは？「入れる」って言ってよ。今入れているから。

モリー：学校は辞めてない。というか。だめ！って思ったんだ。続ける一何事もなかったように続けるぞって。「<sup>エス ケイ</sup>S-K」の発音は、「<sup>アスク</sup>ask」みたいに/<sup>スク</sup>sk/（黒人が/ax/と発音することから）。「メリーさんが電車トレンに乗るとき子羊はメリーさんの後ろにぴったりついて行きます」最悪。テストは全部不合格。顔面に不合格テストを突き付けられた。暗唱させられると頭の中が真っ白で。というか。「メリーさんが電車トレンに乗るとき子羊はメリーさんの後ろにぴったりついて行きます」女の人が電車トレンで羊を連れていてところなんか見たことない。先生にそう言った。追い出された。こんなことは日々よくあることだよ。これだって特別なことじゃない私のだってそう。

シャーリーン：サラミは？もうベジタリアンじゃないでしょ。

モリー：「<sup>エス ケイ</sup>S-K」は「<sup>アスク</sup>ask」のように/<sup>スク</sup>sk/。I lie down, you lie down, he, she, it は lies down。「子羊はメリーさんの後ろにぴったりついて行きます」……

シャーリーン：乳製品を食べるベジタリアン？それとも全部なし？

モリー：今話していること全部が何か間違っている。自然じゃないよ。やっぱりそう行くことなんだ。じゃなくて。やっぱりそう言うことなんだ。

シャーリーン：コーヒーでしょ？

モリー：退学させられた。

シャーリーン：砂糖なしストレート？

モリー：ストレートに言われた。「きちんと話さない者は出て行け」って。しゃべれないんだもん。出て行った。いや。「正確に話さなければ退学だ」そう。そう。いや。ちがう。仕事でそこへ行った。基本的技能って。でも仕事も私をいらなくて。「メリーさんの後ろにぴったりと」というか。物には置き場がある。

シャーリーン：トーストは？

モリー：仕事探し大嫌い。道で自分を売る女の気分。仕事で唯一最悪なのは職探し。

シャーリーン：テーブルの上に置くね。

モリー：You lie down, you lie down, でも he と she と it と us, じゃなくて— we は lays down。辞めたんじゃない。はじき出されたんだ。先生が追い出した。先生が言った言葉の働きって意味がわからないし、働くのに言葉の働きがたとえば電話で敬語が言えなかったり、へましたりすることにつながるって意味が分からなくて、基本的技能を身につけろ礼儀に欠けるって言われて。グチャツとなるかな？

シャーリーン：前、家によく盗みに来る人がいたの。その窓から入らないであのドアから来るの。私ね、入らせていたんだ。歩いて入ってきて動きまわって。で、何か物を指すから、「どうぞご自由に」って言った。そのうち関係が出来てきてさ。名前を聞いた。けど答えない。で、出身を聞いた。そ

れにも答えない。それが答えなかったのはね、話せなかったからなんだ。ジャングルの奥から出てきたみたいな雰囲気、ベローナが言った。顔に船から今下りて来まして書いてある感じで。

モリー：昔、モナという名の私がありました。船から飛び降りたかったけれど飛び降りませんでした。

　　というか。チョナ、求人広告持ってる？

シャーリーン：ハエがご飯の味見をしているよ。来て食べて。

モリー：「求人広告。持っている??」

シャーリーン：コーヒー豆を挽いたのを包んじゃった。

モリー：グチャっ。

## B.

舞台に照明。録音の拍手。演壇に博物学者が立つ。

博物学者：学生にはもう何年も言って来ましたが、最も入念に準備された自分のハエというものは博物主義者が自然の状態の研究対象を捉えることができる唯一の確実な方法です。自然研究の最先端技術をご存じない方もおられるかもしれませんが、我々の最も有益な道具の一つであります原理、「ハエ」をご説明しましょう。自然研究においてハエは、監視される環境の中に溶け込むことにより、博物学者が身を隠し「見られずに」研究対象を監視することができる道具であります。我々の対象の観察において、我々が目的上「モリー」と「シャーリーン」と名付けた対象ですが、彼女たちを選んだのは彼女たちの自然な行動をモニターするためで、監視した後にはおそらく……ハエの形を変形させようと思いつきまして、つまり一般的な家庭の虫であるハウス・コックルーカスをモデルに段ボール紙で作成したこのゴキブリに、カメラを設置しまして、「観察されずに」我々の研究対象を観察することに成功しました。つまり「壁面のハエ」のような存在です。

## C.

モリーとシャーリーンが舞台にいる。

モリー：昔、もし誰も見ていなかったら自分はどんな風だろうと思ったモナという名の私がありました。

　　ヘルプ求むの求人広告持っている？

シャーリーン：コーヒー豆を挽いたのを包んじゃったんだって。モナ？

モリー：グチャっ。グチャっ。グチャッグチャッグチャッ。

シャーリーン：明日害虫駆除業者に電話をするわ。今はそのままにしておいて。

モリー：まばたきすらしなかった。威嚇したんだよ。まばたきすらしなかった。

シャーリーン：だんだん勇敢になるね。大きいし。

モリー：グチャっ！

シャーリーン：モナ！昔、メアリーさんに寄り添ってついて行き、彼女に呪いをかけた子羊がいました。メアリーさんは死に、子羊が先頭になりました。家でも勉強できるよ。手伝うから。

モリー：いや。もう決めた。私は働かない。働けない。正直じゃない。神経がある人は絶対に働きた

いなんて思わない。私は正直になる。落ちぶれて、めちゃくちゃな生活をする。

シャーリーン：彼、話せなかったから何も答えなかったんだ。

モリー：人に見られなかったら私ってどんな感じに見えるだろう。新しい洋服が必要だな。「S-K」の発音は「ask」のように/sk/。子羊はメアリーさんについて行きます……

シャーリーン：昔、ベローナが「モーカス」と名付けた人がいました。「モーカス」は彼の名前ではありません。警察署には彼の写真がファイルにしてあります。99通りの違うバージョンです。どれ一つとして彼の顔には似ていません。

モリー：グチャッ！グチャッ！筋肉さえ動かさなかった。筋肉もない。目だけ。グチャッ！私も部屋を横切ってドアから出て、あの世へ行ってたかもしれない。ピクリとも動かなかった。グチャッ！私は話すことすらできない。虫に刺された。体中虫に刺されたよ！新しい服が必要だな。

シャーリーン：昔、ラツキーという名前の人がいました。博士号をもった害虫駆除専門業者です。彼は白を着ていました。白色は彼の仕事に必要な色だからです。ゴキブリを取り除きに來ます。私たちの名前でもない名前で私たちのことを知っていました。私たちの写真でもない写真で私たちを見分けていました。彼は混乱してしまい、私たちにホースで噴射して私たちを倒しました。請求書のサインにはXと書きます。博士号をもった害虫駆除専門業者。99ドルで仕事をやってくれます。

モリー：寝るけどいい？

シャーリーン：あなたはラッキーよ。モナ。

モリー：キッチンにいたのと同じ虫？

シャーリーン：ちがう虫。ここは虫に侵入されている。あんたはラッキーだよ。

モリー：彼は私たちを監視している。彼は私たちをここまで付けてきて監視しているんだ。

シャーリーン：ラツキーを呼ぶわ。博士号をもった抹殺者ラツキー。スプレーガンを持ってる。

すぐに来るよ。分量を持ってきて調合して、割れ目に噴射。隙間にホースを差し込んで噴射。で完了。任務終了。害虫なし。博士号の抹殺者ラツキー。スプレーガンを持っている。すぐ来るよ。

モリー：ゴキブリが私たちを見ている。ほらチョナ、見て！昔、誰も聞いていなかったら何を話すんだろうと思ったモナという名の私がありました。

シャーリーン：モナ、目を閉じて何か楽しいことを考えな。

#### D.

##### 演壇上の博物学者

博物学者：こうして我々の研究対象を自然にふるまわせています。こうやって彼らが我々に見られていないだろうと思こんでいるとき、我々がずっとずっと遠くにいと信じているとき、我々が背を向けていると思っているときに、自然に振舞うのが研究対象です。さて、知識欲旺盛な観察者には当然次のような疑問が浮かんでいるでしょう。そうです。ははは。どのようにして我々はこのような対象の存在を我々の現代世界に適応させるのが一番良いかということです。つまり、我々は・どのように・対象を・適応・させる・べきか。もし彼らが我々の現代の世界に一調和して—我々と

ともに住むとしたら。はい。彼らの自然な状態を観察した結果、我々の研究対象が彼らの世界（つまりは原始の世界）でどのように発生したかについて分かった今、我々はこの我々の世界（つまり現代世界）にどのようにして彼らを適応させるのが最善の道なのかという問題に直面しています。私は皆さんに思い出していただきたいのです。我々の建国の父たちが出帆し広大な海原を粘り強く渡ったのはおよそ500年前のことです。海には最も恐ろしい種類の危険な生き物が住んでいました。彼らは忍耐強く海のジャングルを渡りこの国を見つけ名付けたのです。荒野は茫漠でした。教え、啓蒙し、飼いならすために来た我々の数は少なかった。彼らは多く、我々は少なかった。そして現在。社会という立派なケーキは崩壊寸前です。気づいてほしいのです。我々とともに行進しない人たちは、行進しないのではなく行進できないということです……彼らは人数が多すぎるほど多く何らかのケアを受けていますね。「彼ら」というのはもちろん「あのゴキブリたち」のことです。彼らには我々の助けが必要です。彼らには我々の助けが必要です。現代の人にとっての情報を原始的な人たちから逐一拾い集めることはできません。現代の人たちにとっての情報収集の唯一の手段は「実・験」です。これは科学においては最も退屈な部分ですが、他に方法はありません。さて、これから、よろしければ、ジャングルへの旅に入ります。*Behavioris distortionallus-via-modernus*. とくにご覧ください。

#### E.

この場で泥棒が入り、ゴキブリを盗んで出て行こうとする

チョナ：ペローナ？ねえ。家にいるの？

ペローナ：チョナチョナチョナチョナチョナ。モナはいる？

チョナ：横になっている。

ペローナ：失恋した？

チョナ：そんなかんじ。かわいそうでさ。モナのことやモナの話し方が分かってきた。モナを連れ出して何か新しい洋服でも買ってあげようよ。

ペローナ：いいよ。

チョナ：服が欲しいって言ってたのに、あたしたちが持っているのはゴキブリだよ。

ペローナ：最悪。チョナ。あれは大きい。私のモーテルにもいるけど。私もくつつくやつ置いてる一糊のついた小さいトレイのやつ。スプレーする人もいるけど。うわああ。だんだん勇敢になってるわ。

チョナ：しかもでかい。お風呂場のあのヒビから入ってきたんだよ。

ペローナ：うわ！うわ！やだ。ラッツキーに電話した？あの博士号。

チョナ：来るって。お金払って、おしまいよ。スプレーガン持ってるから。

ペローナ：支払いは分けようね。99ドルでやるって？

チョナ：プラス諸経費。モナは諸経費については知らないの。いい？

ペローナ：わかった。ラッツキーの駆除ショーのために2, 3匹捕まえられるかもね。

チョナ：昔、しばらくいなくなりたいけど、どこへいなくなっていいのか分からなかった女がいまし

た。昔、ただ寝ていた女がいました。

ベローナ：罨だ。罨を置きなよ。台所の流しの角やレンジのところに、ちょっと、足、足を動かして。玄関の敷居のところとか。そうだ。分かった。あいつらは玄関から入ってくるんだ一夜にドアの下から滑りこんでくるんだ。私はプロじゃないけれどーね？！ほら行ったーゆっくり動いてる。あいつはスパイだ。見えているのは一匹だけど実は数千匹いるよ。数千数千匹がヒビから入ってくるんだ。チャンスを狙ってる。行くのを見て。ゆっくり行くから。底の硬い靴を持って電気を消して台所にしゃがんで座って寝ないで見張らないと。捕まえた！モナはまぶたを虫に刺されたの？モナのベッドの周りに置いておくよ。罨にスプレーをかけておく。

チョナ：昔、注意深い女がいました。昔、警戒している女性がいました。まだ罨にはまっています。

ベローナ：1990年までには害虫はいなくなる。って害虫って自分のことだよ！

チョナ：『野生の王国』が始まったよ。

ベローナ：あんたここから出て行って！

チョナ：あんたのテレビが始まった。

ベローナ：あっそ。ありがと。

チョナ：モナのために音小さめで。いい？

ベローナ：パーキンズは番組終了を許しちゃいけなかったんだ。野生動物が流行遅れになることはない。そう言ってやればよかったんだ。視聴率が何だ！ねえ、見て！長い鼻のヌーを追ってる。繁殖期だね。わあ。これすごいよ。雄と雌のヌーの交尾のクローズアップ。動物たちと一緒にいるみたいな臨場感だよ。途中、終わりのほうで出産の中継があるよ……

チョナ：卵食べる？

ベローナ：鳥には肉が付いてるよね。

チョナ：ーでしょうねー

ベローナ：ベジタリアンになった。今日からだけど。優しいし、安い。ベジタリアンってさー

チョナ：食venaよ。ほら。おいしいよ。おいしいから食べて。食venaさい。食べてください。昔、えさを与える女の手を噛むベローナという人がいました。玄関が鳴った、ラッツキーだ。私が行く。

ベローナ：モナ！私たちの輝かしいお助けマン騎士登場だよ！

モナ：子羊は・メアリーさんの・後ろに・ぴったり・ついて・行きます。

ベローナ：抹殺者。PとHとDの(PhD.)ラッツキー博士。カッコいいとこ見せてよ。

モナ：カッコいい。

チョナ：こちらです、ラッツキー博士。こちらです、ラッツキー博士。特別なお方様。

ラッツキー：できるだけ早く来たんだー私はご覧の通りスプレーガンを持っている。会社が金箔にしてくれてね。とても誇りに思っているんだ。私のことをだよ。クィーンズ(NY市東部の区)に住んでる女性がねーかわいそうにー非常に取り乱してー請求書にサインができなかったー「虫」と言うことができないーしばらくの間、私はうっかりいたずら電話の被害者になってしまったかと思ったほどだー幼い息子が書類を記入してねー噴射する場所を教えてくれたんだー息子がいてくれてその女



は良かっただろう一息子を持ったことが恵みだな。いたく立派な場面だった。シャーリーン、ですね。

チョナ：シャー、だれ？いいえ。あー私、ラッツキー・博士、一チョナです。

ラッツキー：そうか。シャーリーンに見えるシャーリーンに見える確かにシャーリーンに見える誰もそんなことを言ってくれる人はいなかった、凶星だろ？あーそうだ、うむ。「全体的に虫に刺された」という人がいると聞いているが。君かい？

チョナ：私はチョナです。モナのことです。居間にいます。居間のソファーにいる人。

ラッツキー：世界はどうなっていくのか？「世界はどうなるのか」私はしばしば自問する。それに一

チョナ：卵はラッツキー博士？

ラッツキー：うん、いただき。それに一文明という壊れたケーキのテーブルから落ちた屑を餌食としている害虫から、たとえわずかでもお金をもらって生計を立てるのは誤っているだろうか。あれ、あれ！

チョナ：気を付けてください。虫にやられているんです。それに気を付けて。

ラッツキー：もう遅い。これはまた、粘着質だな。くっついてしまった。何だ、こちらの足もだ。足がくっついた。

モナ：メリーさんのひ・つ・じ。

ベローナ：しーっ。

チョナ：ラッツキー博士、くつろいで下さいね。卵をお持ちしますから。

ラッツキー：歩けないな。

チョナ：ずるずる引きずって歩いてみてください。

ラッツキー：参ったね。ずるずるずるずる。参ったね。

ベローナ：しーっ。

ラッツキー：『野生の王国』を見るかい。私も『野生の王国』を見るんだよ。これはおもしろい。参ったな！

モナ：マイッタナ。

チョナ：こちら特別なお方様だよ、モナ、特別なお方様が来たんだよ。ラッツキー特別博士、生ジュースは？

ラッツキー：私を「抹殺者」と呼びなさい。

モナ：マイッタナ。

ベローナ：しーっ。

ラッツキー：さてと。よし。簡単なことから開始しよう。虫に刺されたのは誰かな。

モナ：昔、モナという名の私がありました。モナは医者に行くのが大嫌いでした。一私が・虫に・刺されて・います・ラッツキー・特別・博士・様。

ラッツキー：すぐに終わるよ。元気よく歩いてごらん、モリー。列はここだよ。

チョナ：ジュースを持ってきますね。うちにジュース用のマシンがありますから！



ラッツキー：わたしにはスプレーガンがありますから。

ベローナ：あの人銃を持ってる—マーリン・パーキンズが銃を一

モナ：マイッタ……ナ。

ラッツキー：君だね、モリー。間違っって違う人を撃ちたくないからな。まっすぐ立つんだ。列はここだ。

チョナ：私はチョナです！モナは列にいる人です！—ベローナは？あっちがベローナ。

ラッツキー：チョナモナベローナ。よしよしわかった。間違っって違う人を撃ちたくないからな。

ベローナ：銃を持ってる。銃なんか持ってちゃいけないのに。

モナ：「S-K」の発音は/SK/。斧の「AXE」みたいにね。マイッタナ。私はラッキーだっって、ラッツキー博士。

ラッツキー：私を「抹殺者」と呼ぶんだ。二人とも。いやお前たちみんなだ。

チョナ：抹殺者。抹殺博士。

ラッツキー：で、君は「ラッキー」なのかね？

ベローナ：銃を持ってる！

モナ：私モナ。

ラッツキー：モナだっって？

モナ：モナ・モーカス、泥棒です。

チョナ：モナ、博士を混乱させてはダメよ。モナ、博士が混乱するでしょう。

ベローナ：パーキンズが銃を持ってる。テレビで、ほらすぐそこで。銃なんか持っていちゃいけないのに。

モナ：泥棒、モーカス、モナ。泥棒、モーカス、モナ。物事には置き場所がある。

チョナ：抹殺博士特別様、泥棒はあとで来ます。

ラッツキー：それでは私のスプレーガンといこう。触って見たかい？

ラッツキー：この番組は前に見たな。4回見たな。パーキンズは銃も持っていないからな。

チョナ：昔、混乱して私たちを抹殺した博士がいました。

ラッツキー：混乱したに違いない。太陽のせいだ。いや野蛮人のせいだ。

モナ：野蛮人モーカス。チョナ、泥棒来た。

チョナ：モーカス、どうぞ。ご自由にして。

ラッツキー：電話で応援を呼ばなくちゃいかん。いいかな？

ベローナ：銃の許可証もなかったのに。待って。落ち付け。これ見たことある。きっと大丈夫。と思う……

チョナ：ジュース？私が作ったんですよ。

モナ：私は横になる。私は横たえる。横になる？横にする？横にする？lie down, lay down, lie down, lay down, lay down。

ラッツキー：lie downだ。横になったらどうだね。

モナ：私は横になる。

チョナ：モナは取り乱しているんです。体中刺されていますから。私たち虫に侵入されているんです。

どうぞ、自由にやって。

ラッツキー：モリーさん、君は感染しているようだね。列に並んで。噴射しますよ。

モナ：モナモーカス泥棒。

ラッツキー：やあこれはこれは、こんにちは。ご両親はイスラム信仰者ですか？父がブラック・パンサー党によく出かけて行ったものですから。冷やかしですがね。私の時代より前のことなものでね。あまりしゃべらないタイプだね。まあそう言わずに。ブーとかなんとか言いなさい。噴射してあげますから。

ペローナ：麻酔銃でもない。全く。ホントに！電話しようか。マーリン、あれは麻酔銃じゃないよ、マーリン !!!

モナ：ベッドを整えて横になりなさい。私は横にする。

チョナ：横になる。

モナ：横にする。

チョナ：「なる」でしょ、モナ。

モナ：モナを横になるモナを横になる。

チョナ：「にする」だよ、モナ、「にする」。

モナ：にする、モナ、刺された！まぶたが！ぴったりと・あとに・くっついて！「にする」だよ、モナ、「にする」。

ペローナ：警察を呼びな。

ラッツキー：99ドルになります。もしもし。ラッツキー博士です。10人よこしてくれ。私のようなのを。ここにはすごい本物がいますよ。ブーともスーとも言わない。あれ、おかしいな。電話が通じないぞ……

ペローナ：貸して！ど・う・も・もしもし？マーリン・パーキンズ・は・銃を・持っています。いいですか、マーリン・パーキンズ・は・銃を・持っています！弾が入っています。そうです、入っています。聞いて。お金払うから聞いてよ。チョナ、うち税金払ってるの？

チョナ：桃のパイを作ろうと思って。母のママがよく作ってくれたんだ。裏庭から自分で桃を集めてきてさ、じぶんでね。

ラッツキー：シャーリーン、そのまま動かない。噴射するぞ。

チョナ：モーカス、いいよ。どうぞ、自由にやって。

ペローナ：彼は野生動物を撃っています！

モナ：マイッタネ。

ペローナ：彼は・本当に・動物を・撃っている！税金払っていないよ、チョナ。

ラッツキー：領収書です。ここにサインして。

チョナ：モナ、Xって。どうぞ、いいわよ。

モナ：グチャっ。

チョナ：ラッツキー博士，コブラー（フルーツパイの一種）はいかが？ オープンから出たばかりよ？？？！！

モナ：グチャっ。

ラッツキー：持ち帰り用に包んでくれ，シャーリーン。

モナ：グチャっ。

ラッツキー：お名前を何て言ったかな？

モナ：グチャっ。

チョナ：コブラーを切ってあげる。会社を持って帰れるようにさ。会社の人ですよ？

ラッツキー：応援してくれる人付きだ，シャーリーンさん。私はラッキーな男だ。モリーさんもラッキーですよ。

モナ：グチャっ。グチャっ。グチャっグチャっグチャっ。

ベローナ：警察は構ってくれない。これは不法行為ですよ。

ラッツキー：私の名刺だ。私のスプレーガン！触ってみたか。応援が必要だ。電話借りるよ。

ベローナ：電話には触らない方がいい。盗聴されているから。

ラッツキー：やれやれ。

チョナ：コブラーは，ベローナ？

ラッツキー：では，おやすみ。失礼する。

ベローナ：税金払っているの？チョナ？

ラッツキー：では，おやすみ！

ベローナ：チョナ，税金，払っているの？？！！！！？

モナ：私を隠して。だれか私を隠して。

## F.

ベローナが演壇で話す。

ベローナ：初めてのアフリカはテレビで見ました。ミューチュアル・オブ・オマハ提供の『野生の王国』。ディズニーのワンダフル・ワールドとCBSのイブニングニュースの間の30分番組です。マーリン・パーキンズとジムとアフリカのガイドたちのワンダフルな世界でした。私はジュニア・ガイドをやったことがあり，野生の中でパーキンズが白いランドローバーの上に座っている等身大のポスターを持っていました。サイン入りのシートフィルム的光沢写真をベッドの横に飾ってました。写真を置くためのナイトスタンドをシアーズにわざわざ買いに行ったんです。アフリカ象とインド象の違いや，大自然におけるハイエナの重要性や，どうやって立ってるのか変な格好で斜めになってる木とかについていっしょに学びました。黒人は服を着ていませんでした。マーリンは野生が大好きで敬意を払ってました。地元のわけのわからない言葉をガイドに英語に翻訳してもらって，マーリンは地元の人たちと会話をしていました。時にはカバをなでたりしました。動物保護目的で

動物を連れてきて動物園に入れたりしました。マーリンは彼の輝くような笑顔で動物たちを大切にするように勧めました。昔、ベローナという私がありました。ベローナはママとパパに頼んで黒い犬を買ってもらいました。名前は私がアフリカの砂漠に因んで「ナミブ」と付けました。絶対に優しくすると誓っていたのにナミブは私のしつけを聞かないで、うちの地下室の隅っこでフンはするわ、ソファーに上るわ、出かければ私の言うことは全然聞かないわで、マーリンの助手たちはマーリンの言うことをちゃんと聞いていたのに、ナミブは私が呼んでも振り向きもしないし、「お座り」と言ってもこっちに来なくて行ってしまおうし、郵便配達の人に噛みつかせようと思って前庭につないだら、ちゃんとした犬だったらできるのに、あいつは吠えるどころか、いい顔して尻尾を振ったりして、だから私は誰も見ていないときにナミブを蹴ったんです。だって絶対絶対にナミブは私のことを陰で嘘をつけていたんです。ナミブはある日紐を噛み切って私を噛んで逃げました。私は今、動物病院で働いています。安楽死の専門家です。ある時誰かが迷子の犬を連れてきたので「黒い犬」と登録しました。ブラック・ブックにです。その犬を泣かせたり、鼻を鳴らせ尻尾を振らせたり、さんざん私の悪口を言わせたりしたあとで、私は人間からの選択肢を与えてやったのです。つまり抹殺したんです！その夜私は遅くまで残ってその雌犬を切り開きました。どうしてもどうしても見なくてはなかった。この無愛想な飼いならされた奴の心臓というものを。でも違いました。別段変わったところはありませんでした。物には物の置き場がある。どういう意味かわかります？物には物の置き場がある。それだけです。

(暗転)

## 第二部：第三王国

親類を見る者：親類を見る者。

自分たちを見る者：自分たちを見る者。

サメを見る者：サメを見る者。

魂を見る者：魂を見る者。

監視者（上から見る者）：上から見る者。

\_\_\_\_\_。

\_\_\_\_\_。

親類を見る者：親類を見る者。

自分たちを見る者：自分たちを見る者。

サメを見る者：サメを見る者。

魂を見る者：魂を見る者。

監視者：上から見る監視者。

\_\_\_\_\_。

\_\_\_\_\_。

\_\_\_\_\_.....

親類を見る者：昨夜故郷の夢を見た。だがその故郷は行ったこともねえ知らねえ所だった。

魂を見る者：2つの崖があった？

親類を見る者：あった。

自分たちを見る者：そうだ。

サメを見る者：2つの崖？

魂を見る者：2つの崖。世界の両側に一つずつある崖。

サメを見る者：2つの崖？

親類を見る者：世界が2つに裂けた2つの崖だあ。

監視者：2つ目の部分は2つに分かれた。

サメを見る者：しかしわれわれは船に乗っていない。

自分たちを見る者：いや、乗った。

魂を見る者：乗った。乗ったよ。続けろ。

親類を見る者：泥の中につま先をおっ立てて立ってた。目の前には水しか見えなかった。わしは手を振ってた。振ってたんだ。私のことが見えないもう一人の自分に手を振っていたんだ。水の向こうの崖にもう一人の自分が見えた。だがもう一人の自分には私が見えない。だから私は手を振って振って振って、行け行け行け行け、おーいってね。

監視者：2つ目の部分は2つに分かれた。

サメを見る者：だがわれわれは船に乗っていない！

自分たちを見る者：いや、乗った。

魂を見る者：行け行け行け行け、おーい。

親類を見る者：おーい。行け行け行け行け、おーい。

魂を見る者：おーい。お前。

自分たちを見る者：家に帰りなさい家に帰りなさい遅くまで外にいてはいけないよ。白骨男につかまって波のむこうに連れて行かれるよ。そしたら愛はどうすればいいの？

監視者：2つ目の部分は2つに分かれた。

サメを見る者：食べられる魚がついてきた。われわれの肉は食べられる。魚が狙っている。魚にスマイル。そうすればスマイルしてくれるよ。船から飛び降りたら魚に食われるぞ。血の臭い分かるんだ。サメの群れが見える。真黒だ。黒いぞ！行け行け行け、おーい。「幸せか」って思うんだよね。一同：皆でスマイル！

監視者：静かに。お前か、お前か？海に捨てるぞ。

魂を見る者：あの人、あの人私の名前、知らないの？黒いの黒いの黒いの皆黒いって！

監視者：お前たちは自分で自分を見ているんだ！謎1：私のガラス底の舟について。

親類を見る者：もう一人の自分が私に手を振り返してくれた。私はうれしかった。だがもう一人の自分は私に手を振ったんじゃない。もう一人の自分は自分に手を振ってたんだ。もう一人の自分は海の中の一点の自分、大海の真ん中の一点の自分、何年も昔に船から、船から、自分は、あああ！

監視者：海に投げ捨てられたんだ。

サメを見る者：打荷？

親類を見る者：捨荷。

自分たちを見る者：そうだ。

魂を見る者：大きな・黒い・海底の・真ん中に。

親類を見る者：それから私の「自分」というものが自分の中に現れた。海の中から立ち上がって波の上に立ち、私の「自分」ってのが立っていたんだ。私は手を振って振って振って、すると私の「前の私」が手を振って振って、そして「自分」が自分たちの間に立ち現れて海の中に潜って行った。

親類を見る者：ふうんんんん。

自分たちを見る者：どうした。

サメを見る者：どうやったら「前の私」を見つけられるかな。

親類を見る者：「前の私」が「前の私」に手を振っている。「前の私」が「私」に手を振っている。「前の私」が私の「自分」に手を振っている。

親類を見る者：ふうんんんん。

自分たちを見る者：すっ（つばを吸う音）。

サメを見る者：私を飲み込む魚を夢に見る。そして自分がその魚になり、その魚がサメになり、そのサメは陸地になった夢を見る。ぐぐ！陸地でそのサメは靴をもらって履いている。そして私は私ではなくなり、私は魚でもなくなる。私の新しい「自分」は第三の「自分」で、それは宙ぶらりんの空間の中で作られた。私の新しい「自分」は「自分は幸せだろうか」って思う。私の新しい「自分」は私の新しい「自分」の靴を履いて幸せなんだろうか。

親類を見る者：「前の私」が「前の私」に手を振った。「前の私」が「私」に手を振った。「前の私」が私の「自分」に手を振った。

監視者：世界の半分は2つの世界とその間に海を作って引き裂かれた。この2つの世界が第三王国の名を刻む。

親類を見る者：「前の私」がむこうの崖にいる私の「自分」に叫んでいる。

自分たちを見る者：家に帰りなさい家に帰りなさい遅くまで外にいてはダメ。

サメを見る者：黒人たちは服を着ていなかった。その後黒人たちが着せられたのは、スマイルすること。その間にはいろんな意味で濡れた空間がある。2つの世界。それが第三王国。

魂を見る者：行け行け行け行け行け行け行け行け。

親類を見る者：「前の私」が「前の私」に手を振って「前の私」が「私」に手を振って「前の私」が売られた私の「自分」に手を振っている。

サメを見る者：どれぐらい、どれぐらい入るかな。船いっぱい。

魂を見る者：船いっぱいの白骨。

自分たちを見る者：白骨男が来て海の向こうに私を連れていっちゃうよ。

監視者：もう一度、お前は誰だ。

親類を見る者：私は。ラッキーと申します。

監視者：もう一度、お前は誰だ。

魂を見る者：あの人私の名前を知らないの？

親類を見る者：飛び込むべきか。飛び込むべきかどうなのか。

サメを見る者：だが、われわれは船に乗っていない！

自分たちを見る者：乗ってる。乗った乗った乗った、はい。乗ってる。乗っている。

サメを見る者：われわれは幸せなのか。われわれがどう見えるかがその答えだ。

自分たちを見る者：あの人たちはスマイルが好き。私たちはあの人たちが好きなことが好き。

魂を見る者：あああ！

親類を見る者：「前の私」が「前の私」に手を振って「前の私」が「私」に手を振って「前の私」が魂に手を振っている。

サメを見る者：むしゃむしゃむしゃむしゃ。

親類を見る者：ふうふうふうふう。

自分たちを見る者：すっ。

サメを見る者：ねえ、愛はどうすればいいの。

魂を見る者：私に手を振って。そしたら手を振り返すから。投げキッスをしてくれればお返しするよ。

監視者：静かにしろ。お前か、それともお前か、海に投げられるのは。

サメを見る者：むしゃ。むしゃ。むしゃ。むしゃ。

親類を見る者：振って振って。

サメを見る者：むしゃむしゃむしゃむしゃ。

親類を見る者：われわれはどうやって「前のわたし」を見つけるのか。

魂を見る者：揺らせ。船を。揺らせ。船を。揺らせ。船を。揺らせ。船を。

自分たちを見る者：黒人が歩くとき体をくねらせるのはさ、骨をベッドにおいてきちまったからよ。

魂を見る者、自分たちを見る者、サメを見る者、親類を見る者、監視者：行け行け行け行け行け行け行け  
行け行け行け行け行け行け行け行け行け行け

監視者：一か月もすれば「陸地だぞ！」と大声で叫ぶ。そしたらこれらすべては終わる。一か月もすれば「陸地だぞ！」と大声で叫ぶ。そしたらこれらすべては終わる。列になれ！

サメを見る者：どこへ？

監視者：よく聞け！

魂を見る者：なんで？

監視者：進め進め進め一。「陸地だ！」

親類を見る者：見えるかぎり手を振っていいって言いましたよね。まだ見えるんです。

監視者：だったら振れ。



### III. 作品解説

この作品は1989年にブルックリンのBACAにて上演された。ニューヨーク・タイムズ紙のメル・ガッソーは歴史的視点を劇化し、奴隷時代から現代にいたる黒人のアイデンティティーの喪失について真摯に取り組んだ秀作であると評価した。

奇異な表題だが「カタツムリ」「第三王国」「オープン・ハウス」「第三王国（くり返し）」「ギリシア人」の5部で構成されている。時代は現代の「カタツムリ」から、中間航路の奴隷船内へと移り、「オープン・ハウス」の19世紀の奴隷制時代のメイドの視点から、再び奴隷貿易における恐怖心の再生へと流れる。そして最後第5部の「ギリシア人」で現代に戻り、そこでは白人軍隊での昇進を夢見る黒人軍曹の不条理が描かれる。「第三王国」に登場するイメージ「死」「抹殺」「監視」「服従」「自己喪失」「名前の喪失」「アイデンティティー」「配置転換」が各部で繰り返し登場し、各部を連結する役目をはたしている。

「カタツムリ」の女性登場人物三名はそれぞれ、自分で選んだ名前と白人社会が名付けた名前の二つの名前を持つ。泥棒という役の人物は言葉が分からずせりふもない。一方、「不自然」な生活を強いられている彼らの対極に位置するのがNaturalist（自然学者/博物学者）である。彼は白人の代表として黒人のnature（性質）を観察し、彼女たちのようなアフリカ系子孫の抹殺を望んでいる。主人公の一人モリーは学校や職場から排除されるが、それは、「第三王国」において反抗した奴隷たちが海の藻屑と化す状況と対比されている。言語に限らず、黒人は制度、教育、規律、メディアにおいて一あるいはペローナの物語が象徴するように医療機関においてさえも一彼らを取り巻く監視網のような白人支配階級の規範への服従を求められていることが暗示されている。

「第三王国」とはパークスの造語で、アフリカ大陸とアメリカ大陸の間に存在する、アフリカ系アメリカ人の記憶として伝承される目に見えない空間である。「第三王国」においてパークスは、監視者により海へ投げ棄てられる恐怖心、またアフリカへ置いてきた自己と決別せざるを得ない不条理、そして新たな世界で名もない奴隷になる理不尽な境遇を心象風景として舞台化した。

人種概念は経済や社会制度の利害と不可分であり、差別構造も多層的である。時代は変わっても本質的にステレオタイプの表象には変化が見られないことをパークスは表象、象徴、記号の言語で表現し、問題提起を行っている。

#### 参考文献

Parks, Suzan-Lori. "Imperceptible Mutabilities in the Third Kingdom." 1989. *The America Play and Other Works*. New York: Theatre Communications Group, 2005.